

「自治体・企業による環境保全の取組の見学会（第1回）」を実施

環境教育の体系化を目指した教育改革の一環として、来年度から共通教育科目「環境の現場に学ぶ」が開講されます。金沢大学環境委員会では、そのプレ企画として、金沢大学環境保全センターと協力して、上記の課外の見学会を二回にわたり開催いたしました。

第1回目はゴミの処分を主題とした、金沢市環境局のご協力を頂いた見学会で、11月27日(木)の2限目に実施されました。学生、教職員を合わせて12名が参加し、金沢大学事務局からは関係の深い施設管理部の職員らも加わりました。

見学先は、戸室リサイクルプラザ、戸室新保埋立場で、最後には不法投棄が頻繁に見受けられる現場をも巡視しました。最初のリサイクルプラザでは、リユースを推進するために、粗大廃棄物として出された家具類を修繕、再生したものが何点も展示されていました。

引き取り手の入札を待っているとの説明に、学生たちからは、僕たちも応札したいとの声が一斉に上がりました。また、容器包装プラスチックの手作業による選別状況のVTRを視聴したり、減容化処理作業を見学したりして、金沢市内の一般家庭からだけでどれ程多量に排出されるかを実感しました。

次の埋立処分場ではその余りの広さと、これが近い内に満杯となり、新しい埋立場が必要となるとのことに学生たちは非常に驚き、また、夏の浅野川水害によって発生した流木の山にその被害の深刻さを再認識しました。ゴミの不法投棄現場では、埋立場の周辺であるにも関わらず不法投棄が多く、その原因は受付時間外に埋立場に持って来たため処理に困り、周囲に投棄していく場合もあるようですとのこと、また、不法投棄に対する個人への罰金は最高1,000万円との説明に、思わず溜息が漏れました。

見学を終えての学生諸君の感想は、「ゴミはゴミ箱へ捨てれば終わりではなく、随分手数を要することを認識した」、「効率よくゴミを処理してもらうには、分別が大事だと思った。一人一人の意識を上げていけばいいと思う」などであり、廃棄物処理の実状を良く理解できたとの意見が多くありました。

金沢市の方からは、「廃棄物は埋め立てるという処分だけではなく、色々な形でリサイクルされていることを実感されたことでしょうか。そして、リデュース、リユース、リサイクルの3Rに心掛けて、学生生活に活かしていただければ幸いです。さらに、不法投棄は絶対にしてはいけないと感じていただけたと思います」とのコメントを頂きました。

最後に、ご案内頂きました金沢市環境局職員の皆様にお礼を申し上げます。

容器包装プラ処理設備の運転制御室



「自治体・企業による環境保全の取組の見学会（第2回）」を実施

ゴミの処分を主題とした第1回目の見学会に引き続き、企業によるリサイクルへの取り組みに関する第2回見学会を、ミナミ金属株式会社のご協力を得て、好天に恵まれた12月2日（火）の4-5限目に実施致しました。参加者11名が見学したのは同社リサイクルセンター北陸美川工場、（白山市鹿島町）リサイクルセンター北陸工場（白山市相川町）、本社工場（金沢市打木町）で、マイクロバスによる移動時間を利用し、大学を出発すると同時に、資料を配付頂き、業務内容に関する説明を岡村社長より受けました。同社は、各種の廃棄OA機器などを各社より受け入れて、手作業で解体、素材の分別回収をおこない、金などの貴金属や希少有価金属を多く含む資源として、金属製錬会社へ売却するなど、トータルなマテリアルリサイクル処理を展開しています。同社の取り組みは非常に先駆的で、ISO14001の認証取得（2004年および、OHSAS18001の認証取得（2008年）は元より、「かなざわエコ大賞」を金沢商工会議所から受賞したのを皮切りに、「いしかわグリーン企業知事表彰」などを受賞された優良企業として業界では良く知られており、テレビなどにもその活動が紹介されています。

今回は、パソコンを代表とするOA機器のマテリアルリサイクル処理作業、携帯電話のリサイクル処理作業の状況を見学しました。基板類だけではなく、プラスチック製カバー、骨組みの金属製フレーム、被覆リード線をも含め、99%以上がリサイクルされています。そのためには手作業による解体、部品などの細かな分別回収が不可欠で、作業の手際の良さから、作業員としては女性が適しているとの社長の説明に、学生たちも納得の表情でした。この部品の分別が大まかであれば、再資源化が困難となり、結果的にリサイクル率が低下してしまうとお聞きしました。クッション材の発泡スチロールも、熔融して、角材状のインゴットに変えられていました。

また、誰もが使用している携帯電話器は、機種更新時の回収率が20～30%と非常に低率であるとの情報を頂き、資源を回収するために、金沢大学でも古い携帯電話器の収集に協力するよう呼び掛けられました。

情報機器の処理においては、記憶されている電子情報の扱いが懸念されますが、同社では、強大な磁場を掛けて磁気記憶を完全に抹消する装置を導入し、ハードディスクなどを処理し、情報セキュリティに万全を期しているのが印象的でした。

見学後、学生たちからは、「ハードディスクのリサイクル処分で、個人情報の保護

車中での岡村社長による解説



PC用ハードディスクの処理



に気を配っているのが分かった」、「社長の理念、考え方が非常に印象的であった」、「このようリサイクル事業への取り組みは今後益々重要になってくるので、行政側からの支援が必要」、「手作業で分解していたので、現場は大変だと実感した」などの感想が出され、現場を見て認識が深まり、参加して良かったとの印象が強かったようです。

岡村社長からは、「学生の方々から多くの質問を頂き、弊社の見学を通じて多くのことを学んで頂けたと感じております。道中のバス内でも皆様の積極的な『学ぶ意欲』を肌で感じながら、楽しく意見交換させて頂きました。同時に、弊社としてもこの交流を通じて『外部から見た OA 機器リサイクル』のあり方や、弊社事業内容の説明の仕方について多くの勉強をさせて頂くことができ、大変感謝しております。今後、このような見学会を毎年実施されるとお聞きしておりますが、これは大変素晴らしいことだと思います。私達のような現場で働く者達を通じて、大学内の講義では学ぶことのできない経験や知識を沢山吸収され、皆様の今後の糧として頂ければ幸いです」との有りがたいコメントを後日頂きました。

最後に、終始ご説明頂きましたミナミ金属株式会社の岡村 昇 社長、ご案内下さいました社員の皆様に厚くお礼申し上げます。